

# グローバル化時代のウイルス肝炎

Viral Hepatitis in the global era

講師：四柳 宏 先生（東京大学医学部大学院生体防御感染症学・准教授）

◆Lecturer: Dr. Hiroshi YOTSUYANAGI (Dept. of Infectious Diseases,  
Internal Medicine Graduate School of Medicine,  
University of Tokyo)

日時：平成 27 年 7 月 15 日（水） 17:30

◆Date: July 15<sup>th</sup> (WED) from 17:30

場所：医学教育図書棟 3 階 第 2 講義室

◆Place: Lecture room 2, Medical Education & Library Building 3F.

B型肝炎、C型肝炎はそれぞれ世界で2億人前後の感染者を数える。共に慢性肝炎から肝硬変、さらには肝細胞癌と進む病気である。

B型肝炎は感染力が強く、10 コピーのウイルスが血液を介して体内に入ると感染が成立する。10 種類の遺伝子型が存在する。従来日本には遺伝子型 C, B の割合が高かったが、最近では欧米から遺伝子型 A が入ってきた。この他にも様々な国からこれまで見られなかった遺伝子型のウイルスが検出されるようになっている。遺伝子型により、慢性化の割合、治療反応性が異なっている。

C型肝炎はB型肝炎ほど感染力は強くないが、先進国を中心に感染が広がっている。7つの遺伝子型に分かれるが、日本に多いのは遺伝子型 1、2 であるが、時に海外株が観察される。C型肝炎の治療には経口抗ウイルス薬が使われるようになっているが、遺伝子型が異なると治療法も異なる。日本では稀な遺伝子型に対する治療は健康保険の適応がない。

WHO では昨年C型、今年B型のガイドラインを作成し、世界レベルで肝炎対策を始めた。このセミナーでは世界的視野で日本のウイルス肝炎の現状、今後を俯瞰してみたい。



- 担当：エイズ学Ⅲ 岡田教授 / Prof. Okada, AIDS Research Ⅲ
- レポート提出先/Essay（岡田教授宛/To Prof. Okada）：okadas@kumamoto-u.ac.jp
- レポート提出先/Essay(CC:医学教務/Student Affairs Sec):iyg-igaku@jimu.kumamoto-u.ac.jp